

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教主)が、発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

不可解な政党人

日本の政党人をみると、実に奇怪極まる感がある。は我等のみではあるまい。それは何かというと、自党の言は何事も正しく、他党のそれは何事も間違っているとして決めてしまう態度である。従って、他党がいかに良い意見を吐いても、全部といたい程否定する。他党の政府がいかに善政を行っても、必ず悪政と決める。理屈も何もあつたものではない。まるで馬鹿の一つ覚えのように、敵党に非難を浴びせるほか、何にも知らないようである。しかもその場合、相手に対し怨み重なる仇敵のように、憎々しい言論を振う。これを見る国民は常に不快を感じると共に、一面心細い気もする。というのは、政党人のあまりに雅量の乏しい事と、党の利害のみを本意とせず、国民の利害などテンデ関心を持たないように見えるからである。

よくアメリカ等では、敵党の意見も正しければ賛意を表するという事を聞くが、実に羨ましい限りである。従って、たとえ敵党の意見であつても、是は是とし非は非とし、公平な見方をする態度こそ、国民等しく要望してやまないところである。

また反対党の政府となると、それを倒そうとするのみに汲々としている。時の政府の政策となる

と、いささかの欠点でも容赦しない態度は実に小乗的である。今少し寛容な態度で眺める余裕があつて欲しいと思うのは、誰しも同感であろう。故に政府にいささかの失敗でもあると、鬼の首でも取つたように騒ぎ立てる。これらを見る時、日本の政党人なるものは、国家を善くし国民の幸福を増進する事等は後回しとし、まず敵党を攻撃し、ただ内閣を倒し政権にありつけばいいとしか思っていると思われない。それが彼等の方針としていようである。

何よりも国会の醜態状態をみればよく分かる。

攻撃のための攻撃、揚足とり、野次、喧噪、はては腕力沙汰にまで及ぶというのだから、実に見るに堪えないものがある。全くこういう議員によって政治が行われるとすれば、不幸なる者よ、汝の名は日本国民なり」といいたいくらいである。

(昭和二十五年御発表)

宗教と政治

政治と宗教とは大いに関係があるにかかわらず、今日まであまり関心を払われなかつたのは不思議である。むしろ、宗教が政治に関与するを好まないばかりか、かえって政治から圧迫されて来たというのが、終戦以前までの実状であつた。これは古往今来各方面にみられる現象で、宗教によつては迫害の強い結果、一時は法灯のまさに消えなるとした例も乏しくはなかつた。しかしながら、宗教の目的である理想世界を造り、人類の幸福を増進せんとしても、政治が良くなつてはその目的は達し得られない道理である。この意味において、良き政治には良き政治

家が必要となつて来るが、良き政治家たるには、どうしても宗教心がなくてはならない。今後の時代をして理想社会を実現せんとするには、まず宗教を政治に織り込む事である、と私は思うのである。

政治家の最も陥りやすい欠点は、外国は知らないが、日本においては流職問題であろう。然るに、この原因は宗教心のない唯物的政治家だからである——といえよう。何としても、今後は宗教的政治家の輩出こそ我等が要望するところのもので、それによつてのみ将来の国運の進展を期待し得らるるであらう。

私は新日本建設にあつて、何よりも政治家に宗教心を培い、宗教政治が行なわれるようにならなければならぬと思う。今人々は口を開けば政治の腐敗、選挙の不正、役人の流職、人民の脱税、教育家の墮落等をあげるが、全くその通りで、この泥沼同様の社会を浄化せんとして、為政者を始めそれぞれの方事者人民大衆が苦慮しており、その防犯手段として法の力のみを頼りにしているが、これは全然根本を逸している。何となれば、犯罪の根柢は人間の内面にある魂そのものであるからである。この魂を浄化する事こそ真に効果ある方法で、それは正しい信仰以外他にない事を私は信ずるのである。

(昭和二十四年御発表)

浄霊体験記

- ゼンソク治り コンサートも成功…
- 背中に出来た塊 きれいに消える…
- 心身共に救われ 人生最高の喜び…
- 一回の浄霊で 頭が軽くなる…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

ゼンソク

ゼンソク治り
コンサートも成功…

東京支部
倉地恵子 (61)



平成二十七年の九月、私はゼンソクの発作が起きたのですが、浄霊で有難い体験をしましたので、皆さまにお伝えいたします。

平成二十七年九月十日、二つの台風が同時に襲来した影響もあつたせいか、ゼンソクの症状は重く、支部に御守護のお願いをしました。

翌十一日、更に十三日には、どうしても休めない歌の仕事が入っていましたので、明主様をお願いして、自分でも浄霊を受けました。

十一日、支部で浄霊を受けてから仕事に行き、その日はおかげ様で歌うこ

とが出来ました。この時、友人の医師が私を心配して訪ねて来てくれました。私の呼吸音を確認して「炎症が肺まで及んでいるので、服薬しないと危ないよ」と言われましたが、これまでも浄霊で楽になっていたため、服薬はしたくないと思っていました。

その夜、仕事の疲れや友人に言われたことの不安も相まって苦しくて眠れませんでした。十二日は静岡に移動して宿泊、十三日は大きなコンサートがあり、朝から市民合唱団の指導、午後はリハーサル、夜は本番と、休みなく丸一日歌わなければならない。この状態では服薬しないと無理ではないかと不安になりました。

十二日、静岡入りする前に支部に行きました。旅の荷物を抱えて支部に行くだけでも精一杯で、玄關に座り込んでしまいました。その後、支部で浄霊を二回受けました。また、食事が出来ていない私を察じて無農薬のスイカをご馳走して下さい、励ましの言葉と共に少しずつ力が出てきました。

二回目の浄霊では眠ることも出来ませんでした。その後、最寄り駅まで歩いてわずかの距離を車で送って下さる等、支部の人達の心遣いに感謝しながら静岡に向かいました。

呼吸が楽になった…

電車で移動中も少しずつ眠れるようになり、状態が好転していることははっきり感じました。服薬するつもりも考えませんでした。ホテルでも横になって眠ることが出来、翌日は無事コンサートを成功させることが出来ました。本当に奇跡としか言えませ

ん。本番後に支部に電話で感激と感謝の御報告をしました。

仕事を終えてホテルに戻ってから、自分で浄霊を受けました。胸部を浄霊しながら、ゼンソクは苦しいけど、私の体が一生懸命に毒素を出してくれているのだと、明主様に感謝申し上げます。するとその瞬間、たくさんのタ

ンが自然に湧いてきて、呼吸が楽になりました。今回もたくさんの奇跡を頂きました。心より感謝申し上げます。

(東京都調布市)

背骨の塊

背中に出来た塊
きれいに消える…

桜井支部
元屋宣雄 (76)



私が三十代初めの頃のことです。「背骨にウズラの卵程の塊がある…」と、職場の同僚に言われましたが、特に気にもしていませんでした。しかし、五十歳近くになると、塊が鶏の卵の大ききさになっていることに気が付きました。その時は、痛みやかゆみを感じま

せんでした。何の支障や心配もなく、日々明主様の御守護の中で過ごしていました。

仕事にも影響なく、平成二十一年の七月に定年退職をしました。すると、それから二カ月後に腰が痛み出しました。今までは数日で痛みが良くなっていったのですが、今回は一カ月ほど痛みが続きました。それから間もなく、背骨の塊が痛み出し、夜は二つ折りにした座布団を背中の両側にあて、敷き布団に当たらないように工夫して寝ていました。

妻に痛むところを見てもらうと、塊の下に小梅くらいのおおきさの黒ずんだ塊が出来ていたようで、膿が出てくるまでは、発熱、体全体のだるさ、お風呂に入ると体全体が痛みました。支部では毎日二回浄霊を受け、自宅でも受けていました。おかげ様で寝込むことはなく、畑仕事も出来、腰痛も良くなっていました。

背骨の塊が痛み出してから五日後、畑の草刈りをしている最中、急に背中に冷たいものが流れるのを感じました。きつい匂いが鼻についたので、塊がつぶれたことに気がきました。すると、体全体のだるさ、痛みがなくなったのです。膿が出ることでこんなにも体が楽になるということを知り、明主様に御礼を申し上げます。

帰宅してからも、膿はまだ沢山出ていたので、妻に拭き取ってもらいました。最初はガーゼを使っていたのですが、それでは間に合わず、さらし一反(十メートル)を使っていました。

それから、膿は四カ月間出しましたが、おかげ様で、その後は綺麗になりました。そして数カ月が経ち、このよ

うな状態が再び起こり、六年間で九回繰り返しました。しかし、回を重ねる毎に、熱と身体全体の痛みやだるさが

軽くなっていくのを感じていました。今現在は塊もきれいに消え、それから塊は出てきていません。

私は、体内の毒素や霊体の曇りが減つてくると、体の表面に表れているものでもきれいになっていくと教えて頂いていたので、心配ありませんでした。明主様のお力の素晴らしさにただただ感謝申し上げます。日々、命の継ぎ足しを頂いていることをいつも有難く思っています。

(奈良県桜井市)

浄化作用

人間には体内の毒素 (= 汚物) を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素がハナやタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

高さ二メートルから転落

心身共に救われ
人生最高の喜び…

フランス・ブルターニュ出張所
クリスチヌ・クーティ(55)



今から八年ほど前、私達が新しい家に引越してきて間もない時のことです。二〇一四年九月二十九日の夜中、突然一階から物音がしたため目が覚め、気になったので見に行こうと思い、眠たい目をこすりながら電気もつけずに歩き出しました。私は廊下にいるとばかり思っていたので、何の迷いもなく前進しました。するとその瞬間、床が崩れていくような感覚で足から地面がなくなりました。空中で足踏みが続けながら、何かにしがみつこうとしたことまでは憶えています。頭に爆弾が落ちたかのような衝撃があり「もう、これでおしまい」と思いました。なん

と、私は、高さ二メートル程の階段からタイルの床に、頭から転落してしまつたのです。

すると、「お母さん、お母さん」と泣き叫ぶ息子の声と、夫が私の名前を呼び続ける声が聞こえてきました。少しづつ意識が戻り、「信じられない！私は生きているんだ」と分かりました。とにかく、泣き続ける息子と夫を安心させるために、「大丈夫よ、私は生きていますよ！」と言いつづけました。まだ、この状況で生きていたのが不思議でたまりませんでした。鼻血が出始め、夫から浄霊を受けました。それからベッドに戻り、まだ鼻血は出ていましたが、めまいもなく、意識はハッキリしていました。上唇がとても痛く、前歯がかけているような気がしました。

私たちが住んでいたのは、フランスのアルデシュ県という田舎でしたので、一番近い病院でも車で四十分位の所にしかありませんでした。その時は、この状態で車に揺られながら移動することも考えられず、じっとしておきたいと思っていました。

その後すぐにパリ支部に電話をして、明主様に御守護のお願いをさせて頂きました。その時は、頭、鼻、上唇、右肩がとても痛んでいたことから、衝撃がどんな大きなものか理解出来ませんでした。一体、私はどんな状態なのだろうと想像するだけで怖くなってきました。

その後すぐにパリ支部に電話をして、明主様に御守護のお願いをさせて頂きました。その時は、頭、鼻、上唇、右肩がとても痛んでいたことから、衝撃がどんな大きなものか理解出来ませんでした。一体、私はどんな状態なのだろうと想像するだけで怖くなってきました。

日に日に良くなり
感動と嬉し涙…

明主様を想い、明主様のお側にいることを思うと、心が安らぎ、明主様に浄霊を受けているのだと感じながら、

眠りにつきまじりました。どこが骨折しているのかも分からない状態でしたが、この状態でギブスをはめるのも難しいと判断し、夫の理解も得て、自宅ですとしながら、浄霊を受けることにしました。

夫は理学療法士ですので、鼻や鎖骨が骨折していると言っていました。それから腕に激痛がはしり、腕も骨折していることが分かり、そして横隔膜、膝と少しづつ痛みが起きてきました。十五日間から三週間ほど私は痛みと不安で涙を流すこともありました。しかし、こうして体内の毒素や曇りを浄めて頂いているのだと思いました。現に、体の調子は日に日に良くなっていき、感謝と嬉し涙で、涙があふれました。

それから勇気をもって鏡に映る自分の姿を見てみると、おかげ様で顔は浮腫くんでおらず、少しほつとしました。前歯は、少し折れているような感じはありましたが、見る限り、全部残っていました。いつ痛みが起きるのが分からなく、激痛に襲われるのも恐怖の一つになっていたのですが、そんな時は「明主様」と強くお願いすると不思議と痛みを受け入れることが出来ました。

私は夫から一日に二回浄霊を受け、自分でも浄霊をしました。一日中横になつていて、トイレに行く時だけ起き上がり、食事はベッドの上で取りました。一番辛かったのが、三歳半の息子の世話が出来ないことでした。息子も私の姿を見て、三歳なりに一生懸命私に気を遣ってくれているようでした。神様は一つの出来事で色々なことが学べるのだと教えて下さっているように感じました。

おかげ様で現在は走ることも、運動をすることも、仕事をすることも、踊

ることも、掃除をすることも、全て出来るまでに回復しました。

私たちはパリからここへ引越して間もなかったのですが、色々な方に助けて頂きました。これも明主様の御守護なのだと思います、深く感謝申し上げます。

今回の体験を通して、明主様への信仰が深くなりました。神様から新しい命を頂けたことに感謝申し上げ、多くの方に神様は存在するのだと知ってもらいたく、私の体験談を書かせて頂きました。誠に有難うございました。

(フランス・ブルターニュ)

頭痛・低血圧

一回の浄霊で

頭が軽くなる…

ネパール・カトマンズ支部
ナレンドラ バハドール スレスタ(53)



私は三十年前から頭痛で悩んでいました。

何をしても痛みが治まらず、そのうち頭が腫れ始め、外から見ても頭の形がおかしいと分かる程でした。病院に行き、様々な検査をし、CTスキャン

で頭の内部も調べましたが、原因は分からず、医者からは痛み止めの薬を渡されるだけでした。どうしようもなく、その薬を飲み、痛みが少し和らいだと思えば、今度は反対側の頭半分が痛み、何日経つてもその状態が交互に繰り返されるだけでした。

それから十年後、今度は低血圧になり、何をしてもやる気のない状態となりました。頭がフワフワとしており、少しでも横になっていたという気持ちでした。またイライラすることも多くなり、食欲も減っていったので、体重も二十キロ落ちました。

どうしたらこの状態から救われるのだろうかと考えていましたが、何の方法も見つかりませんでした。

今から七年前、私は少しでも運動をしようと思い、散歩していると、「浄霊」と書かれている看板を見つけたのです。何だろうと思い、その場にいた人に聞くと、浄霊という健康法と言われ、良く解らなかつたのですが、健康法なら試してみたいと思い、そのまま支部にいき、浄霊を受けました。

すると驚いたことに、一回の浄霊で頭や体が軽くなったような、いつもとは違う感じを受けたのです。ここは何かが違うと思った私はその日から続けて浄霊を受けました。

おかげ様で日に日に状態が良くなっていき、十五日後にはなんと低血圧が解消されたのです！そのため食欲も増えていきました。それから頭痛も徐々に解消され、頭の腫れは全くななくなりました。わずか半月程で良くなったのです。本当に感激でした。

現在では会員となり、毎日浄霊を受けていますので、健康的で悩みもありません。皆さんも是非、浄霊を受けてみてください。

(ネパール・カトマンズ)

自然農法

明主様の御教え

無肥料栽培

私は今無肥料栽培に就き解説するにあたって先づ根本理論から説いてみるが、抑々土とは何ぞやといふ事である。言ふ迄もなく人間生命を保持すべき最重要なる五穀野菜を生育すべく、造物主が造られたものに違いない。従つて土そのものの本質は神秘幽玄なるものであつて、現在までの唯物科学によるも到底窺知し得ない事は論をまたない感である。然るに今日迄の農業は不知不識邪道に陥ちいりたる結果土の力を蔑視し、一切の作物をより良く生育するには糞尿又は化学肥料等の人為的肥料に依らねばならぬと思ひ、今日に到つたのである。

然るに以上の如き結果は、土壌の本質は漸次退化変質し、土壌本来の生育力は衰耗するに拘わらず、それに気が付かない為、農作不良の原因は肥料不足に因ると錯覚し益々肥料を施すから土壌の力は愈々鈍化しそれを補わんとして肥料をより施す結果、今日の如く日本の國土は瘦地化し、農耕者の口を揃えて嘆ずる処である。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談



田川支部
石元美代子 (65)

私は今から48年前、高校生の時に新健康協会の浄霊と御縁があり、会員になりました。また、同じく会員になった私の叔父と母が、明主様の御教えである自然農法に取り組み、美味しい野菜を作っておりましたので、私もいつしか自然農法を実行したいと念願していました。

どこかに小さくても自然農法が出来る所がないだろうか...と探しておりましたところ、昨年4月に福岡県田川郡大任町に無肥料・無農薬栽培が条件の貸農園が開園したので、早速会員有志の方々と共に長年の念願でした自然農法の実行に取り組み始めました。

貸農園は、無農薬・無肥料だけでなく、土に入れるものは農園内で生えた草などのみで外部からのものは一切持ち込み禁止、水も貸主さん宅にある井戸水のみ使用という条件なので、明主様の自然農法の実行に最高の貸農園だと思えました。昨年はジャガイモ、里芋、コシヨウウなどを育て、落花生は予想以上に良い出来栄で、昨年12月4日に新健康協会総本部で行われました自然農法展示会に出品させて頂く事が出来ました。

今後も土作り、自家採種に取り組んで「無農薬無肥料でこんなに美味しく素晴らしいものが出来るんですよ」ということを広くお伝えし、自然農法普及のために努力して行きたいと思っております。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

旦入 《不二黒茶碗》

樂焼は茶の湯の大成者、千利休に倣い初代長次郎が創始したとされるやきものです。樂家によつて一子相伝で代々受け継がれており、四五〇年を重ねた現在もつくり続けられています。当時は今焼と呼ばれていたようですが、窯のあつた場所、あるいは関係性から、秀吉の邸宅である聚樂第にちなんで「聚樂焼」と記されるようになり、次第に樂焼と呼ばれるようになったと考えられています。この富士の山を白く抜いた深い黒釉の茶碗は、樂家十代旦入の手によるものです。

旦入は寛政七（一七九五）年に九代了入の次男として生まれ、文化八（一八一）年に十七歳で十代吉左衛門を襲名します。「旦入」という名は弘化二（一八四五）年に隠居してから称したものです。先代から継承した篋使いをさらに発展させ、作風は技巧的で華やかと評されています。また、美濃や唐津といった国内のやきものの技法や意匠も積極的に取り入れ、独自の造形性を確立しました。

ひとつ注目したいのは、文政二（一八一九）年、表千家九代了斎とともに紀州徳川十代治宝の別邸につくらせた、いわゆる御庭焼、「偕楽園窯」開設に貢献したことです。治宝は、歴代の紀伊藩主のなかで最も文化や芸術に造詣が深いとされており、自ら書や絵を手掛けたほか、茶の湯とやきものに高い関心をもっていました。將軍家にも近い大藩のリーダーの影響力は、文化の継承にとつてとても大きなものがあります。制作するものの優れた資質や絶えず進化する姿勢などは当然かもしれませんが、時の権力をもつものの庇

護に恵まれることもまた、長い年月をくぐり抜けるのに必要なことです。旦入は、さらに引き続き紀州徳川十一代斎順の「西の丸窯」や「清寧軒窯」の開設にもつとめており、その榮譽をきちんと自覚していたのではないかと思います。

もともと戦国時代、佗茶が成立しようかという頃の茶の湯は、茶会も道具も、その所有者の力を誇示する政治的な面も多分に持ったものでした。太平の徳川時代に至り、性格は変化していたと思われませんが、それでも職人が制作に打ち込む環境を後押ししたことには違いありません。現代の優れたものを後世につないでいくために私たちができることも考えさせられます。

解説 松田愛子



晴明会館

「伝承の趣」後期展
期間…1月7日(土)～5月13日(土)

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1555